

2024 年度 第9回 公立大学法人埼玉県立大学教育研究審議会 議事録

1 開催日

2025 年 2 月 3 日(月)

2 開催方法

WEB 会議

3 参加者

星議長、磯田委員、伊藤委員、林委員、金村委員、東委員、常盤委員、濱口委員、田中委員、國澤委員、山崎委員、久保田委員、河村委員、廣渡委員、野中委員
オブザーバー参加：田口学長補佐兼専門職連携教育研修センター長、延原情報センター長、北畠地域連携センター長、滑川保健センター長

4 事務局

長岡副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、酒井施設管理担当部長、小原教務・入試担当部長、今村学生・就職支援担当部長、篠原企画・情報担当部長

5 議事概要

【議事録確認】

議長から前回の議事録が提示され、内容について確認された。

【審議事項】

(1)次期カリキュラム基本ポリシー策定案について

資料に基づき、東高等教育開発センター長から説明され、内容の一部を修正の上で進めていくこととされた。

○ DP の 10 の学士力にある「エンゲージメント」について、もう少しわかりやすい言葉にできないか。

⇒ 一般的に使われており、高校生にも分かるという判断をした。念のため用語の解説を入れている。

○ 「コミュニティ・エンゲージメント」「グローバル・エンゲージメント」は初めて聞いた言葉で、高校生に定着しているとは言えないのではないか。

また、「多様な連携を通じて、グローバル社会の諸課題に取り組む」について、この文章に専門職連携実践の意味を持たせているのに違和感がある。コミュニティまで入れてグローバル社会という使い方はあるのか。

⇒ 「エンゲージメント」については、しっかり定義をしてわかりやすく表現するか、表現そのものを変えるか検討し、修正する。

また「グローバル社会」については、「国際社会」だと国と国の関係が中心となってしまう

ので、この言葉を用いたという経緯がある。説明がつくような修正を検討したい。

- 「エンゲージメント」は、卒業生や地域住民等のステークホルダーに対してどうエンゲージメントするか、という意味合いを含めたのかと感じたが、この言葉を選んだ理由は何があるか。相互理解を結んで取り組む、というイメージもあるかと思っている。
⇒ 一般的に使われており、一方的に何かするだけでなく両方で成長していく、というニュアンスがある言葉だと思う。
- ステークホルダーに対して約束するという意味だと捉えており、DP に用いるには意味が強すぎると感じている。
- 先日、大学院の3ポリシー等を改訂したが、この学部の改訂に合わせてまた改訂を行うのか。グローバル等の部分は整合性を取るよう修正する必要があるのではないか。
⇒ 大学院との連続性についてはまだ検討していないので、確認する。
- CPについて、「学修成果の評価を通じて、教育内容や方法の改善を図り、教育の質を向上させることに努めます」というのは、CP に含めるものなのか。CP というのは、個々の学生の学修をどのように評価するのか、ということではないか。
⇒ 他大学で含めているところがあり、ここまで踏み込んで入れておいた方が良いと判断した。
- PDCA サイクルとして DP の達成状況を見た上で行う内容なので、CP に書くことは適当なのか。
⇒ カリキュラム・マネジメントが求められており、カリキュラムを実施していく上で、それを評価しながら改善をしていくことを、CP に掲げておいて問題はないと考えている。
- 大学全体のマネジメントとしては当然この内容となるが、学生に対して提示するものと考え、ここまで書く必要があるか、ということである。
⇒ 検討課題とする。
- CP と AP について、内容に評価が含まれている。3 ポリシーの評価に関してはアセスメントプランを別に作っているが、今回の CP と AP に含まれている評価の方法は同じものか。
⇒ アセスメントプランとは異なるものである。AP の評価というのは、例えば小論文という方法で表現力を評価します、などという意味である。
- アセスメントプランと CP・AP の評価方法がダブルスタンダードにならないか気になっている。アセスメントプランを立てるのであれば、CP・AP に評価項目は含めなくて良いのではないか。
⇒ AP は入学者選抜に当たってどういう項目をどういう方法で見るのかというもののため、別物である。
- AP には入試の評価項目が書かれており、入試の良し悪しはアセスメントプランに書かれている、という点からすると別物とは考えにくい。
⇒ 入試問題がどうだったのかという実証は行っており、もちろん必要なことであるが、アセスメントプランに AP にあるような細かい内容は特に含まれていない。

○ 求める学生像について、大学院は教育目標に向けて学修できることを求める学生像として定めている。学部はそれと異なるが、整合性を取る必要があるのではないか。

⇒ カリキュラム検討部会でそのような表現の仕方はどうなのか、という意見があった。まだ決定しているわけではないが、この3ポリシーを使い始めるのは 2027 年度なので、学部を大学院に合わせるのではなく、まず学部を変えて大学院を後で変えていくという考え方もできる。

○ 上位概念である教育目標とか教育目的に、国際性や地域性といった色々な言葉が使われているが、言葉の使い方が合っているかどうか確認いただきたい。

(2) 認証評価の受審に係る点検評価ポートフォリオ(案)について
資料に基づき、伊藤副学長から説明され、案のとおり承認された。

(3) 令和 7 事業年度 業務運営に関する計画(案)について
資料に基づき、長岡副局長から説明され、案のとおり承認された。

【報告事項】

(1) 2024 年度埼玉県立大学学生調査(卒業生・修了生)について
資料に基づき、篠原企画・情報担当部長から報告された。